

NEW GOODS

そらべあタオル

毎日使うタオルにそらべあをプリント。バッグに収まるサイズのハンドタオル。洗顔やスポーツに最適なフェイスタオル。全身をやさしく包んでくれるバスタオル。3種類のタオルは、生活のさまざまなシーンで活躍してくれます。また、タオルの売り上げの一部はそらべあ基金に寄付されるため、購入するだけで間接的に地球温暖化防止に貢献できる商品となっています。



そらべあハンドタオル(約34cm×36cm) 販売価格: 210円(税込)
 そらべあフェイスタオル(約34cm×80cm) 販売価格: 315円(税込)
 そらべあバスタオル(約60cm×120cm) 販売価格: 1,260円(税込)

種類: こおり柄、てんてん柄
 ハンドタオルとフェイスタオルは2枚セット商品あり
 製造: 株式会社ナストコーポレーション
 取り扱い: イオン、ライフなどのスーパー、雑貨店ほか

メディア・イベント情報

「ECOを伝えるグラフィックデザイン展」

印刷博物館で開催中の「ECOを伝えるグラフィックデザイン展 ～印刷物における環境コミュニケーションの現在を探る～」にて、キャラクターを使った環境コミュニケーション事例として、そらべあが紹介されています。同展では、グラフィックデザインは環境をどう捉え、デザインに生かしているのかをコンセプトに、国内外の企業や自治体のポスター、環境広告、環境報告書、エコグッズ130点を展示。大人や子どもを問わず、環境問題を伝えようとしている作品ばかりですので、誰もが楽しめます。近くにお立ち寄りの際は、ぜひとものぞいてみてください。

会期: 2009年3月3日(火)から4月19日(日)
 会場: 印刷博物館 P&P ギャラリー
 (東京都文京区水道1-3-3 トッパン小石川ビル)
 開館時間: 10時～18時
 入場料: 無料
 URL: <http://www.printing-museum.org/>



メディア・イベント情報

「環境会議 2009年春号」(宣伝会議)

環境CSRの専門誌「環境会議 2009年春号」の特集で、難しいテーマをわかりやすく伝える環境キャラクターとしてそらべあが取り上げられました。ライバル(!?)のモリゾー・キッコロやでんこちゃんなどとともに、キャラクターの誕生秘話が語られています。

お便り募集

そらべあへのお手紙や、そらべあとの写真を募集しています。氏名(ふりがな、ペンネーム)、住所、メールアドレス、そらべあ便りへのご意見・ご要望などを明記の上、Eメール、または郵送でご応募ください(写真は撮影したシチュエーションを明記してください)。

ホームページ: <http://www.solarbear.jp/contact.php>

メール: info@solarbear.jp

ハガキ: 〒107-0052 東京都港区赤坂 5-2-39

円通寺ガデリウスビル 1F

ストラテジックシナリオグループ内

そらべあ基金事務局 「お便り」係



事務局のつぶやき

そらべあサポーターのみなさま、こんにちは。第2回そらべあスマイルプロジェクトの応募が終了して、どこの幼稚園、保育園に当選するかドキドキしているそらべあ基金事務局です。この冬は湯たんぼがブームとなり、サポーターのみなさんと関

係者の方々に「そらべあの湯たんぼを見たよ～」とご報告をいただきました。本当にうれしい限りです。そして、新年早々には“そら”と“べあ”の生みの親、カトウシンジ先生にお会いしてきました。なんと今年はそらべあのグッズが続々と登場予定ということですので、みなさんは是非ともお楽しみに!

そらべあサポーターズクラブ

- 個人・ファミリーサポーター: 103名
- プレミアムサポーター: ソニー株式会社、ソニーマーケティング株式会社、ソニー損害保険株式会社
- そらべあ基金サポーター: シチズン時計株式会社

(2009年3月1日現在)

そらべあ便り vol. 2
 NPO 法人そらべあ基金
 〒107-0052 東京都港区赤坂 5-2-39 円通寺ガデリウスビル 1F
 ストラテジックシナリオグループ内
 TEL: 03-3584-2133 FAX: 03-3586-8010



そらべあ便り



そらべあ
 企業サポーター探訪
 スタート!



© Shinzi Katoh

エコプロダクツ 2008 出展レポート



昨年末の12月11日～13日、日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ 2008」が東京ビッグサイトで開催されました。今回で10回目を数える同展には、758の企業・団体が参加。そらべあ基金もブースを出展し、太陽光発電施設を寄贈する「そらべあスマイルプロジェクト」や企業とのコラボレーション事例を中心とした展示をおこないました。

特に目立ったのは子どもたちの姿。エコプロダクツ展は、毎年多くの児童や生徒が訪れ、子どもたちの環境学習の場となっています。そらべあ基金では、涙型のメッセージカードを配布。そらべあ基金ブースは、子どもたちが宣言したエコアクションや、“そら”と“べあ”への応援のメッセージでいっぱいになりました。

ほかにも、ソニー株式会社や日本風力開発株式会社など、そらべあ基金のサポーター企業のブースでは、そらべあの着ぐるみが登場し、大人から子どもまでたくさんの人の注目を集めていました。

そらべあ基金は、今年もさまざまなイベントに出展していきます。ぜひとも遊びに来てください。



お客さん呼び込み中の
“そら”と“べあ”



メッセージカードであふれる
そらべあ基金ブース



そらべあ基金の活動紹介も行いました

楽しくエコロジーを
勉強していきましょう！

そらべあと学ぼうエコ講座

「生物多様性」 biodiversity

地球上のあらゆる生き物は、他の生き物と互に関わりあって生きています。例えば、花の蜜を求めて集まる虫は、花の受粉を助ける一方で、鳥のエサとなります。また、私たちは毎日、肉や魚、野菜を食べて生きています。衣服は動植物の繊維から、住む家は木材からつくられており、人間も生き物のつながりの一部です。このように、様々な生き物が存在し、それらが互いにつながりあっていることを「生物多様性」といいます。

もしも人間以外の生き物がいなくなったら、私たちは生きていくことができないでしょう。ところが今、地球上では1日に200種類もの生き物が絶滅しています。そらべあのモデルであるホッキョクグマや、物語に登場するアザラシも、絶滅が心配されている動物のひとつです。1種類でもいなくなれば、それを食べて生きていた生き物だけではなく、そこに生きる多くの生き物が影響を受けて、絶滅への道を歩みだします。

生き物が絶滅しているのは、人間による乱獲や棲みかの破壊、地球温暖化などによる地球の環境の変化によるためです。人間にとってなくてはならない生物多様性を、人間自身の手で減少させているのです。その一方で、生物多様性を守ろうとする動きも出てきています。そらべあ基金の仲間であるエコロジーオンライン(※)では、かつて日本の生物多様性の宝庫だった里山を取り戻そうと「里山どんぐり募金」をつくりました。現在、里山の再生や保全に取り組む団体・教育機関に、ピザ窯を贈る活動をおこなっています。雑木林の手入れで発生した間伐材を薪にしてピザを焼くことで、美味しい体験と里山保全が同時にできる一石二鳥のプロジェクトなのです。

来年2010年には、国際会議(COP10)が名古屋で開催されるなど、ますます注目のキーワードとなる「生物多様性」。まず身近なところでは物を買う時、それがどこから来たものなのか、生き物とのつながりで考えてみることをはじめてみましょう。



<http://www.satoyama-donguri.jp/>
里山どんぐり
© つやまあきひこ/朝日小学生新聞

※普通の人たちにわかりやすくエコロジー情報を伝えるために活動しているNPO団体。オンラインの世界で獲得した「人のつながり」や「共有された知識」を、企業や行政との協働をとおして現実の場で形にしている。 <http://www.eco-online.org/>

そらべあ 企業サポーター探訪



今回訪れたのは、そらべあ基金サポーターのシチズン時計。
世界で初めて光で動く腕時計を開発した会社なんだから！

ソーラーの力で社会を明るく照らしたい！

シチズン時計株式会社
時計事業企画本部 環境企画室室長
井上 健さん

昨年の北海道洞爺湖サミット。シチズンは「エコドライブ」という腕時計を、G8の各国首脳及び随員、報道関係の皆様へ贈呈いたしました。エコドライブは、光を電気に変換して動く時計で、電池交換不要な画期的商品として1976年に誕生して以来、シチズンが世界に誇るエコプロダクツです。

一方で時計の製造には、さまざまな化学物質が使用されます。有害な化学物質が、ひとたび環境中に放出されれば、人の健康や生態系に悪影響が出てしまいます。これを防ぐため、当社では徹底して化学物質の管理と削減をおこなっています。おもしろい例があります。2004年からの3年間で出荷されたエコドライブは約720万個。ということは、同数の一次電池がゴミにならず、水銀や鉛といった有害物質も出さずに済んだという訳です。ちなみに720万個の電池を積み重ねると、エベレストの約1.7倍の高さに相当します。

ここ2、3年の世界の環境意識の高まりもあって、「エコドライブ」と「化学物質管理」という2つの両輪がうまく回り始めました。現在では、製品づくりに関わる活動自体を、シチズンの環境活動の核に位置づけ、マーケティングを展開しています。

今後、我々が目指すのは、製品を通じた社会貢献活動です。消費者がシチズンの製品を買うことで、社会貢献できるような仕組みをつくるのが理想ですね。光発電腕時計のバイオニアとしては、ソーラーの力で世の中を明るくする企業になりたいと思っています。太陽光発電の普及をおこなっているそらべあ基金は、そんな我々にピッタリな団体かもしれません(笑)。



左から、宣伝部・山田さん、
時計事業企画本部・井上さん、三浦さん